

講義科目名称：国際協力

授業コード：

授業科目の区分等：基礎教育科目 教養

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2 年	2	選択
担当教員			
野崎 謙二			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	TS (国際)	201 (中級科目)

授業のねらい（概要）	この授業では、現代社会において国際協力を担う主体やテーマが多様化していることを理解するのが目的です。かつては政府が実施する支援がほとんどでしたし、現在もその役割は非常に大きいですが、近年は多国籍企業や非政府組織（NGO）も国際協力のために重要な役割を果たしています。また、国際協力のテーマも、経済発展だけを考えれば良いのではなく、環境問題や人間の安全保障など多様です。規模の大きなプロジェクトから草の根レベルの協力まで、できるだけ多くの事例を参考にしながら、これらについて学習していきます。		
授業計画	第1回	ガイダンス：授業の全体の流れと進め方、豊かさとは何か （予習）豊かさとは何か考えてくる（120分） （復習）豊かさの計測方法や限界について理解する（120分）	
	第2回	国際協力とは何かー自分が困った時からイメージする （予習）自分が生活に困った時どうするか考えてくる（120分） （復習）支援の方法や内容について理解する（120分）	
	第3回	開発途上国とは何か、先進国とは何か （予習）開発途上国にはどういう国があるか、その理由は何かについて考えてくる（120分） （復習）先進国と開発途上国の違いを整理する（120分）	
	第4回	日本の経験ー被援助国から援助国へ （予習）戦後の闇市について調べてくる（120分） （復習）日本が先進国と呼べるようになったのはいつ頃から説明する（120分）	
	第5回	国際機関の役割①：国際連合 （予習）国連の機関について具体的な例を調べてくる（120分） （復習）国連総会や関連機関の機能を理解する（120分）	
	第6回	国際機関の役割②：世界銀行 （予習）日本が世界銀行の支援を受けて建設したプロジェクトを調べてくる（120分） （復習）世界銀行の役割を理解する（120分）	
	第7回	持続可能な開発目標（SDGs） （予習）国連が提示する目標の役割を考える（120分） （復習）私たちの生活の中でSDGsの何に貢献できるか考える（120分）	
	第8回	各国政府の支援：政府開発援助（ODA）とは何か （予習）開発途上国を支援する方法について考えてくる（120分） （復習）ODAの種類と内容が説明できるようにする（120分）	
	第9回	日本のODAの特徴 （予習）日本のODAの実施機関について調べてくる（120分） （復習）日本のODAの特徴や方針について理解する（120分）	
	第10回	日本の支援でできたもの：事例① （予習）カンボジアの「きずな橋」について調べてくる（120分） （復習）交通施設の建設を支援する意味を理解する（120分）	
	第11回	日本の支援でできたもの：事例② （予習）ラオスという国の主要な産業を調べてくる（120分） （復習）発電所の建設に必要な労力や地元民への影響を理解する（120分）	
	第12回	非政府組織（NGO）による協力 （予習）タイやフィリピンのスラムについて調べてくる（120分） （復習）スラムに支援する意味を理解する（120分）	
	第13回	企業による国際協力①：多国籍企業の役割 （予習）トヨタ自動車がどの国に工場を持っているか調べてくる（120分） （復習）企業による雇用創出やCSRについて理解する（120分）	
	第14回	企業による国際協力②：ODAと企業の投資 （予習）高崎市の企業である群栄化学工業株式会社の海外法人がどこにあるか調べてくる（120分） （復習）タイの工業化に果たした日本の官民の役割を理解する（120分）	
	第15回	まとめ：国際協力の多様化と私たち （予習）政府・民間の国際協力のあり方を整理する（120分） （復習）私たち1人1人ができることを考えてみる（120分）	
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	ディプロマポリシーのうち、「グローバルな視野と 多様な価値観を尊重する姿勢」を身に付けることができるようになります。		
到達目標	国際協力について、官民の役割が理解できるようになります。 自分自身が国際協力の主体となるための準備ができるようになります。		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	提出された課題・リアクション・ペーパーについては、授業時に内容ごとに分類して解説・議論をします。		
履修上の注意	授業には受け身で参加するのではなく、常に自分が主体となって考えるような習慣を身につけてください。自分ならどうする、こうするべきではないかといった批判的な見方が必要です。		
成績評価の方法・基準	定期試験60%、課題・リアクション・ペーパー：40%		

教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。
参考書・教材	内海成治(編)『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社 外務省『開発協力白書』
備考	
教員との連絡方法	メールで連絡してください。